

03・トゥルーエンド 「選択：雫を信じて待つ」

『01・共通ルート』から三日後。

冬のある日、十八時ごろ。

主人公、マンションの部屋の壁にもたれかかって、ぐったりしている。

雫が姿を消してから数日。いまだに雫は戻らない。

その間主人公はずっとこの部屋にこもって、三日前の出来事を反芻していた。

本当にこれでよかったのか。

あの時、無理にでも雫を引き止めるべきだったのではないか。

それとも、今からでも彼女を探して外に行くべきなのか。

そんな事ばかりを、繰り返し考えている。

主人公にはもう、これからどうすればいいのかわからない。

でも、それでも約束を破るのだけはいけない気がする。

あの時雫は『絶対ここに居てね』『うまく行けば、すぐに戻れるかも』と言った。

であれば、自分はそれを信じるべきではないか。
少しくらい苦しくても、友人として、雫の帰りを待つべきではないか。
そう思っている……。

ふいに、玄関の扉が開く音がした。

始めは気のせいかと思ったが、遠くからかすかに物音が聞こえ続けている。
もしかして……。

SE1 玄関の扉が開いて、閉まる音

【最初から最後まで流す】

【非常に遠くで、かすかに聞こえる】

SE2 雫の足音

【最初から最後まで流す】

【だんだん近づいてくる】

【トラック01のSE9と同じ音】

予想は当たった。出ていった時と同様に、唐突に雫が戻ってきた。

「それなりに疲れた様子で。」

だが『今日のアルバイト、きつかったあ』と言っている程度の様子で」

ただいまあ。

ただいまあ。

【少し間をあけてから】

はー。疲れたあ」

はあ。疲れたわあ」

〈主人公〉

「雫……！」

主人公、這うようにして雫に駆け寄る。

この部屋にはいくらでも食べるものがあったが、ほとんど食べる気にはなれなかった。だから主人公は憔悴しきっており、もはや、立ち上がって走る元気もなかったのだ。そんな主人公に、雫は優しく微笑む。

「疲れつつも、優しく穏やかに。」

出ていく前と変わらない態度で」

うん。戻ったよ。ごめんね、一杯待たせて」
うん。戻ったで。ごめんな、一杯待たせて」

〈主人公〉

「もう……戻ってこないのかと思った……！」

主人公、泣きじやくりながら雫に抱きつく。

もしかすると、今見ているのは、ただの都合のいい夢なのかもしれない。
そう思うと恐ろしいが、だったら猶更、堪能しておく必要があると思った。
主人公、強く雫を抱きしめる。

SE3 主人公が雫に抱きつく音

【最初から最後まで流す】

「『大げさだなあ』という感じで。

まるで『ただバイトに行ってただけなんだから、時間になれば帰ってくるよ』とでも言うような感じで」

何ー？

何ー？

あなたが約束守ってくれたんだもん。私だって守るよ」
あんたが約束守ってくれたんやし。うちかて守るよ」

雫、主人公の左耳に、優しくささやく。

「少し間をあけてから。

ゆっくりと、左耳にささやく。

一つ前までとは違う、主人公を真剣に安心させようとする声で」

もう大丈夫だよ。すぐに全部元に戻るよ」

もう大丈夫や。全部、すぐに元戻る」

一体どこへ行っていたの。

一体何が『もう大丈夫』なの。

一体何が『すぐに全部元に戻る』の。

聞きたい事はたくさんあった。

でも、主人公は、そのまま……。

〈主人公〉

「……………」

しばしの沈黙。

「不思議に思っ。主人公の返事がないので」

あれ……？

あれ……？

「少し間をあけてから。主人公の顔を覗き込むイメージで」

もしかして寝てる？

もしかして寝とる？

「長めに間をあけてから。予想通り、主人公が寝ているのを確認して。

主人公の思わぬリアクションにポカンとするが、すぐに納得する」

はは。私が戻ってきて、安心したのかな……。

ふふ。うちが戻ってきて、安心したんかなあ……。

「ゆっくりと、かみしめるように」

そうだよね。限界だったよね。

そうやんな。限界やったやんな。

【静かに謝罪する】

ごめんね。

ごめんな。

【少し間をあけてから。

ここから次の※マークまで、主人公が寝ている事はわかっていて、なお『もう安心である』事の根拠を述べる】

でも、今回もちやんとやったから。

でも、今回もちやんとやったからな。

悪い奴は全部、私がやつつけたよ。

悪い奴は全部、うちがやつつけたで。

これで全部元通り。目が覚めたら、予定通り。デートできるよ」

これで全部元通りや。目、覚めたら、予定通り。デートできるえ」

しばしの沈黙。

雫、すでに主人公は聞いているはずもないとわかっていて、独り言のようにつぶやく。

「ゆっくり、淡々と」

ねえ。本当はこんな風になった事、一回や二回じゃなくて。

なあ。ほんまはこんな風になった事、一度や二度じゃないねん。

もう何回目だったか、そろそろ忘れる位で……。

もう何回目やったか、そろそろ忘れる位で……。

私だけがそれを覚えてる。

うちだけがそれを覚えてる。

これからもそれが続くだけで、いつか私が負けて、死ぬ時が全部の終わり。

これからもそんなんが続くだけで、いつかうちが負けて、死んでまう時が全部の終わり。

その日を待っただけの人生だとしても……」

そんな日を待っただけの人生やとしても……」

しばしの沈黙。

「優しくささやく」

大好き。

【少し間をあけてから】

私、これからも頑張るから。

うち、これからも頑張るからな。

ずっと一緒に居ようね……」

ずっと一緒に居よな……」

SE 4 雫が主人公の背中を『ぽん、ぽん』と叩く音
【最初から最後まで流す】

「おやすみなさい」

「おやすみ」

ここでフェードアウトして終了。